

管楽合奏は楽しい会？

No.62 “ボヘミアとフランスそれにイタリアの音楽”

2026年5月30日(土)14時00分開演 北とぴあ15階・ペガサスホール

ロゼッティ	(捷/1750～1792)	「パルティータ ニ長調」全4楽章 (Fl)信澤/村上 (Ob)山本/楠原 (Cl)宮下/向山 (Fg)森川 (Kfg)山田 (Hn)市原/余田
ドヴォルザーク	(捷/1841～1904)	「ソナチネ」全4楽章～ヴァイオリン曲からの編曲 (Fl)信澤 (Ob)山本/土屋 (Cl)庄子/向山 (Fg)大石/阿部 (Hn)美/余田
ゲーヴィ	(仏/1819～1898)	「八重奏曲」全4楽章 (Fl)村上 (Ob)楠原 (Cl)兼氏/庄子 (Fg)尾作/阿部 (Hn)余田/菅川
--- Intermission---		
ダンディ	(仏/1851～1931)	「シャンソンとダンス」全2曲 (Fl)村上 (Ob)楠原(Cl)兼氏/庄子 (Fg)尾作/大石 (Hn)菅川
ノチェンティーニ	(伊/1849～1926)	交響曲「労働は全てに勝利する」全3楽章 (Fl)岡添 (Ob)楠原/山本(Cl)兼氏/宮下 (Fg)阿部/大石 (Kfg)山田 (Hn)菅川/美

出演者の簡単なプロフィール(楽器別50音順)

(Fg & Cond + MC)森川 一 (もりかわ はしめ)

法政大学入学後ファゴットを始め、菅原眸氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、その後元ハンブルク州立劇場奏者フリッツ・ヘンカー氏に師事する。フリーの奏者として活動し今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会を開催。他にオケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。「管楽合奏は楽しい会？」及び「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」「アンサンブル松戸ハイデルベルク」など主宰。リード製作者としても高い評価を得ており「森川ファゴット&リード倶楽部」を運営している。ファゴット演奏者倶楽部メンバー代表

(Fl & Cond)岡添 隆 (おかぞえ たかし) ドヴォルザークとロゼッティを指揮

京都大学音楽部交響楽団でフルート奏者、学生指揮者として活躍する。フルートを佐々木伸浩氏、持田洋氏に、フラウト・トラヴェルソを森本薫氏に師事。普段は某メーカーの会社員として東大の社会連携講座と共同研究を行うなど、研究活動を行っている。研究と音楽の二刀流は成り立つ、が信条。アンサンブル・メゾンに所属

(Fl)信澤達也 (のぶさわ たつや) 当団アンコール曲の専任編曲者

高校1年のとき隣席の友人の勧めでフルートを始める。東京大学音楽部管弦楽団に入団し磯辺庄平氏に師事、卒業後は東京アマデウス管弦楽団で活動。鉄鋼メーカーや特許調査機関勤務を経て、2024年3月にサラリーマン生活に一旦終止符を打ったが2025年4月、呼び出されて前職場に出戻った。オケ、管楽合奏(以上フルート)、ビッグバンド、トロンボーンアンサンブル(以上バス・トロンボーン)を軸に活動中。

(Fl)村上芳明 (むらかみ よしあき)

京都府出身。中学時代にオーケストラ部でフルートを始めて以来、オケ一筋で活動。大学では一橋大学管弦楽団に所属、卒業後は大学OBオケである水星交響楽団を中心に、複数のアマチュアオーケストラで演奏。フルートを齊藤賀雄氏、スタニラフ・フィンダ氏に師事。チェリビダック・ミュンヘンフィルをこよなく愛するブルクネリアン。

(Ob)楠原千佳子 (くすはら ちかこ)

中学からオーボエを始め、藤原勲氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団及びアンサンブル・メゾンに所属。週末は存分に音楽を楽しみ、平日はまちづくりの仕事に従事する日々。

(Ob)土屋英晃 (つちや ひであき)

東京都出身。14歳よりオーボエを始める。桐朋学園大学音楽学部、同卒業演奏会出演。同大研究科修了。第12回別府アルゲリッチ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2011にオーケストラメンバーとして出演。2009年、市川市文化振興財団第22回新人演奏家コンクール管楽器部門で優秀賞を受け新人演奏会に出演するなど同財団主催の演奏会に多数出演。コンセル・ヴィヴァン第29回新人オーディション合格し優秀賞を得る。オーボエを藤村理子、宮本文昭、嶋崎耕三、浦丈彦の各氏に、また室内楽を白尾彰、岡本正之の各氏に師事。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団、洗足学園音楽大学演奏要員を経て、現在はensemble le creuset、市川文化振興財団フレッシュアーティストバンクに所属、柏市音楽家協会会員。

(Ob)山本悦子 (やまもと えつこ)

川崎市出身。中学校の吹奏楽部でオーボエを始め、専修大学フィルハーモニー管弦楽団でオーケストラを始める。現在は大田区のオーケストラに所属。勤務先の大学病院では広報やロビーコンサートの担当をしている。自他ともに認める無類のパンダ好きで、(Chinaに戻ってしまった)シャンシャンとレイレイの名付け親の一人である。

(Cl)兼氏規雄(かねうじ のりお)

東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学留学。NHK洋楽オーディション合格。NHK「午後のリサイタル」等に出演。水戸芸術館「公募企画シリーズ」の第1回出演者に選出されリサイタルを開催。08年、東京オペラシティでのリサイタルについて、「音楽の友」誌上で絶賛される。水戸芸術館主催の「茨城の名手・名歌手たち」オーディション審査員、「茨城の演奏家による演奏会企画」選考委員、茨城県の新人演奏会出演オーディション審査員、新人賞選考委員。また、日本クラシック音楽コンクールの全国大会木管楽器部門審査員も務める。現在、上野学園大学音楽学部、茨城大学教育学部、大東文化大学文学部講師、水戸ゾリス代表。フルスヴァルト合奏団同人

(Cl)庄子穂奈美 (しょうじ ほなみ)

1990年生まれ、宮城県出身。中学時代の吹奏楽部にてクラリネットを始め、高校からレッスンに通い始める。クラリネットを千石進、堀川豊彦の両氏に、室内楽を太田茂氏に 師事。昭和音楽大学短期大学部卒業。

(Cl) 宮下節子 (みやした せつこ)

学生時代は東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その後、名古屋市室内管弦楽団を経て、東京アマデウス管弦楽団で長く演奏した。半世紀近くにわたリクラリネットを平林邦男氏に師事。公務員を定年退職した後は、少しずつ家族、音楽との時間が増えてきている。

(Cl)向山尚志 (むこうやま たかし)

12歳よりクラリネットを始める。東京大学入学と同時に音楽部管弦楽団に所属、この間にクラリネットを故・浜中浩一氏ほかに師事。1974～2003年まで東京アマデウス管弦楽団に所属。2002～03年に当会に参加後、仕事の都合で東京を離れたが、2017年の復帰して以降は全て参加している。

(Fg)阿部寛一 (あべ けんいち)

京都大学交響楽団で活躍する。ファゴットを光永武夫、森正彦、日名弘見の各氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、アンサンブル・メゾンで演奏活動。大手化学会社に42年間勤務し2022年に退職。その後ファゴットを福士マリ予氏に師事し基礎からのやり直しを始め、加えて子供の頃に手掛けていたピアノ、リコーダーにも手を広げ、音楽を中心に毎日忙しくしている。それ以外では健康寿命を延ばすための筋トレや下手なゴルフ、更に家事全般と近くに住む孫の世話などして引退生活を満喫(?)している。ファゴット演奏者倶楽部メンバー。

(Fg)尾作拓郎 (おさく たくろう)

神奈川県出身。法政二高吹奏楽部にてファゴットを始め、法政大学交響楽団を経て、市民オーケストラなどで活動。同大学卒業後はシステムエンジニアとして大規模金融システムの開発をする傍ら週末に積極的に演奏活動を行っている。ファゴット演奏者倶楽部メンバー。

(Fg)大石龍巳 (おおいし たつみ)

京都大学交響楽団で活躍する。阿部氏の後輩にあたる。現在はアンサンブル・メゾン、管楽合奏は楽しい会?で演奏活動中。社会人になってからずっと横浜のまちづくりに携わってきた。エキゾチックな港町横浜に是非お出かけください。ファゴット演奏者倶楽部メンバー

(Kfg)山田祐理 (やまだ ゆうり)

10歳まではヴァイオリン、中学でユーフォニウム。法政二高吹奏楽部でファゴットを始め、その後法政大学交響楽団、ジュネス等で演奏。ファゴットを森川一氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、ナズドラヴィ・フィルハーモニーで演奏するほか、エキストラとして数多くのオケに出演。背にはコントラ、手にはファゴットを持ち東奔西走している。普段は大学教員(物理化学)として働いている。ファゴット演奏者倶楽部メンバー

(Hn)市原秀紀 (いちばら ひでき)

東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その間故・伊藤泰世氏に師事。博士課程修了後紆余曲折を経て現在は高分子の研究開発で忙殺されつつ、日曜音楽家としてホルンを嗜む。現在は脇屋俊介、井上華の両氏に師事しながら東京アマデウス管弦楽団を中心に大編成のオーケストラで活動。それ以外にもアマデウスのメンバーと定期的に木管五重奏の演奏会を開いたり、ホルンアンサンブル”Strudel Hornisten”を主宰している。

(Hn)溪 真司 (たに しんじ) 初参加！

千葉県出身。小学校の金管バンドでトランペット、次いで吹奏楽が盛んな中学校でホルンを始め、演奏の喜びに沼る。更に吹奏楽で名高い神奈川大学で楽器三昧の4年間を過ごした後、吹奏楽団「横浜プラスオルケスター」を創団したが、現在は他の市民吹奏楽団にて演奏中。さりながらホルンを始めた時から吹奏楽曲より管弦楽曲を好む。今では銘器として知られる、マルク・シュミードハウザーの日本初の所有者である事を誇る。

(Hn)皆川理恵 (みながわ りえ)

9歳よりホルンを始める。東京音楽大学音楽学部ホルン科卒業。守山光三氏、冨成裕一、湯川研一の各氏に師事。木管五重奏団アンサンブル・アクアのメンバー。ヤマノミュージックサロン柏 講師。またフリー奏者としても活動中

(Hn)余田尚史 (よでん なおふみ)

北海道札幌市出身。ダルビッシュ有と同年。中学からホルンを始め、北海道札幌西高等学校、京都大学でもオーケストラでホルンを続ける。大学では小山亮氏に師事する。現在は会社勤務の傍ら新日本交響楽団等に所属。練習の合間においしいカレーを食べに行くのが好き。

本日はご来駕有り難うございます。MC(森川)が出番なので、最初の曲の解説を少し致します。

ロゼッティはボヘミア、現在のチェコの作曲家です。本名はフランティšek・アントニン・レスラーですが、ボヘミアの作曲家は他国での活動のためにドイツ風に名前を変えることが多かったのです。ドイツのハルブルク(山頂の城で有名)の宮廷にコントラバス奏者として職を得て、数年後には楽長になります。あのハイドンが”最も著名なロゼッティ氏”と称したように、売れっ子の作曲家でした。つまりはボヘミア〜ウィーン古典派の代表的作曲家と言える人物なのです。その後「北方の小さなヴェルサイユ」と称される、ドイツ中北部のLudwigslustのメクレンブルク宮廷に移り、名声は頂点を極めますが肺炎のために46歳の若さで亡くなります。35の交響曲を始めとして多くの作品を残しますが、現在は余り演奏されません。とは言えロゼッティだけでなくボヘミアの作曲家には管楽合奏の佳曲が多く、我々には有難い事です。

本日の出し物は1784年に書かれ、RWV(ロゼッティ作品整理番号) B4とされ、十重奏なのですが本来はファゴットとコントラバスはユニゾンで2つつ入り12重奏です。当時のこの2つの楽器の音量が足りなかったからだと思われます。モーツァルトにもこうした曲があります。交響的で面白い響きがするのはロゼッティの技量は勿論の事、この宮廷に腕の良い演奏家が揃っていた証拠だと言えるでしょう。冒頭を飾るこの曲をお楽しみ頂ければ仕合わせに存じます。

次の演奏会の告知が下にありますが、実は未定のアンサンブルの会が12月にあります。私の主催ではなく会の仲間が取り仕切る演奏会で4回目になり、私は一奏者としての参加です。ホームページに載りますので、宜しければご来駕を。

次回は2027年5月23日(日)14時開演 深川江戸資料館・小劇場

演奏会の感想など、宜しければEメールでお聞かせ下さい。mail:heckelfg@infoseek.jp

ホームページ～<http://windgroup.stars.ne.jp/>